

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300743		
法人名	医療法人社団 青藍会		
事業所名	ハートホーム平川グループホーム		
所在地	山口市 黒川 729-2		
自己評価作成日	平成22年 6月 8日	評価結果市町受理日	平成22年10月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の光が採り入れられ、湿度や温度管理のもと、快適に過ごせるように配慮しており、アットホームな感じを味わっていただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近代感覚の共用空間は広く、明るく、自然の採光を取り入れ、温度管理も出来て、快適に過ごせるように配慮されています。中庭は自然を楽しむ花や植物に囲まれ、テーブルやベンチが用意され、癒やしの場となっています。併設のデイサービスで、地域ボランティアによる行事が毎月開催され、利用者と一緒に参加され、地域との交流を楽しむ支援をしておられます。法人による運営面や研修、緊急時におけるバックアップ体制や併設施設との連携が良く、職員は安心してケアに携わっておられます。居室は広く畳の間やベット等様々で利用者一人ひとりの思いの品々が持ち込まれ、ゆったりした生活をおくっておられます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年6月18日		

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者が認知症を超えて、その人らしく安心した毎日をご過ごせるように最善を尽くす」というホーム独自の理念を作成し、地域の中で実行に努めている。	地域密着型サービスの理念をつくり、職員は法人理念と共に朝礼で唱和し、共有して実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童とともに餅つきをしたり、自治会の役員や地域の人々の協力を得て、納涼祭(カラオケ大会)の開催や近隣の障害者び方々との交流や挨拶で馴染みを深めている。	地元自治会主催の納涼祭への参加、地区住民のラジオ体操、児童と一緒に餅つき大会など事業所と地域のふれあいを保ちながら、利用者や家族も参加し、交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や散発など、地域を利用し、認知症の理解を深めるとともに、清掃活動など参加している。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果の検討後、目標、対策を話し合いモニタリングを行うなど、1年をかけて改善に取り組み、職員の自己改革の一因になり、「改善計画評価表」の作成につながっている。	管理者、職員は自己評価や外部評価の意義を理解し、評価結果については業務改善ミーティングで話し合い、「改善計画評価表」を作成し、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括センター職員、地区福祉員、家族、管理者、職員のメンバーで2ヶ月に1回開催して評価報告、サービスの提供状況等の話し合いをしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況やサービスの実際等を報告し、意見をサービスに反映している。	参加メンバーの拡大と工夫
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議など利用し連携を図っている。	市介護保険課とは、事故報告書の提出時に情報交換を行っているほか、事業所の実情を伝え、日常の相談に応じてもらっている。	
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は認識し、実施している。同敷地内の他の事業所も交えて「高齢者虐待防止委員会」を開催、復命、共有している。市との連携も図っている。	職員は身体拘束について理解しており、同敷地内の事業所と合同で「高齢者虐待防止委員会」を開催し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止委員会」の開催、復命、共有を行って、防止に努めている。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の理解をつける為、みんなにどういふものか調べていただき、活用できるように話し合いをしている。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し納得していただいている。また分からない点などあった場合は、電話や相談を受けるようにしている。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受ける体制が整っている。窓口、職員、第三者委員、外部機関を明示し、苦情受付の記録は整理され、家族に説明している。第三者委員への要・否欄もあり、時には外部に公開し、運営に反映することもある。	月1回開催の家族交流会や家族の訪問時に、利用者や家族から意見や苦情、相談を聞いて、その内容を運営に反映させている。苦情相談窓口及び担当者、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善ミーティングなどを利用し職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように、努力を行っている。	業務改善ミーティングを月1回開催し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に応じた仕事内容、安心した職場環境に勤めている。		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として外部研修の情報を提供し、希望する研修に参加できる配慮をしているが、参加が偏っている。法人の内部研修やホーム独自の研修もある。	外部研修を受講できる機会を確保し、毎月1回の法人内研修、敷地内併設施設の平川スタッフミーティングでの研修など職員が学ぶ機会を数多く確保して、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護施設部会の研修会に参加したり、月1回の法人の5グループホームの交流、情報交換をしている。また、法人間の交流研修の機会を得て、県外のグループホームや福祉施設の視察研修に出かけたりして、質の向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いた環境づくりを行い出来るだけ本人にあった環境に勤めている。また本人の言葉など否定せず聴く耳を持つようにし不安の軽減をおこなっている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への確認承諾をへてサービスを開始するようにし、家族の来所時・電話などあった際は状況を報告し相談にのるようにしている。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時や入居前の事前の話合いや、入居後の話を行い、必要なサービスは実施出来るようにしている。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	書道の得意な利用者に歌詞を書いてもらったり、懐かしい歌を教わったり、食事作りの際には、切り方・盛り方を教わったり、支えあう関係を築いている。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が余り来所されない所は、電話など行い日頃の状況など伝え出来るだけ来て頂けるように声かけなど行っており、来所時は、家族と話をしサービスにてや、希望を聞いている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や本人の希望を聞き、出来るだけいけるように努力している。	本人の希望を聞いて知人、友人に会いに行ったり、来てもらったり、馴染みの美容院、喫茶店等に出かけて行くなど、関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で揉め事があれば、職員が間に入ったり、席の検討・変更などを行っている。孤立しがちな利用者は、まず職員が間に入り、他利用者との関係を作っている。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に悩みや相談を受け付けていることを報告し支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床、就寝、日用品の調達など本人の希望を尊重し、家族と連携しながら支援している。地域の美容院やかかりつけの歯科の往診も可能で、本人の意向等は家族にも強力を得て、モニタリング用紙(センター方式を参考に改定)を活用している。	家族からの情報や日頃の会話、表情、行動から意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族や本人に今までの生活歴や生活環境、趣向を聞き、その方にあったサービスが出来るよう努めている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりにあったよりよい生活が出来るよう、職員間で情報を共有し、いいアイデアがあった際は、即行動し、サービスに努めている。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを開催し、職員の意見を聞いている。カンファレンスへの家族への参加はないが、計画の原案を見せて意見を聞き、反映するようにしている。家族の来訪時に意向を聞くよう努めている。	日常の関わりの中で本人がよりよく暮らすためのケアの在り方を話し合い、家族からは来訪時に意見を聞いて、月1回のカンファレンスで話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、一人ひとりの経過を記録し、職員俵で共有、申し送りでも活用している。変化があれば、話し合いをし、よりよいサービスが提供できるよう努めている。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中での変化はすぐに話し合いをし、月1回カンファレンスも開催し、職員の意見を聞いている。家族の来訪時には家族の意向を聞くよう努めている。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの散発や買い物を行っているまた、散歩などで地域の方とのすれ違い時の挨拶や、お話などを行っている。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(眼科、歯科など)と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。家族に情報を提供し、共有に努めている。	利用者、家族の希望、納得の得られたかかりつけ医への受診の送迎や付き添いの支援を行い、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時や様子がおかしい時など、専属の看護師やドクターに報告し早期に対応している。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報の提供を行うとともに、入院中の状況などを聞いている。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの方針、同意書等、関係書類は整備され、家族に説明もしている。利用者の介護度によって話し合い、意向を聞いている。	重度化や終末期のあり方について事業所で出来ることや看取りの方針等家族に説明し、医師や家族、関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故やヒヤリはっと報告書は整理、保存され、職員会議で再発防止の検討をし、共有すると共に、ケアカンファレンスにおいても検討し、介護計画に活かしている。家族への説明もされている。日常業務の中で、管理者がその都度、事故防止に対しての指導をする取り組みもしている。	事故・ヒヤリはっと報告書を整備し、職員会議で利用者一人ひとりに応じた事故防止対策を話し合い、その結果を運営推進会議やホーム便りで報告している。応急手当や初期対応の訓練を年1回実施し、日常業務の中で、実践力を身につけている。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消火器使用、避難、通報、タンカ使用の訓練を実施、別日程で夜間想定訓練も2回実施している。訓練には利用者、同じ建物のアパートの住人も参加している。法人本部とホームに分けて災害時の備蓄(水、食糧)を保有、避難場所も決めている。	災害マニュアルを作成し、年2回消火器使用、通報、避難訓練を利用者、地域の安心ホームの住民と一緒にしている。夜間想定も2回実施している。災害時の備蓄(水・食糧)を保有している。運営推進会議で地域との協力体制を築いている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内で勉強会を開き、排泄時の声掛けなど日々実施している。	職員は法人内研修等で理解しており、利用者一人ひとりに対する尊敬やプライバシーを損ねない言葉かけを毎日の朝礼で確認し、対応している。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散発希望など本人の希望で出来ることほ出来るだけ実施している。また物が無くなった際は、職員と一緒に探し解決するように実施している。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その日」にしたいことの把握に努めると共に、散歩、入浴等一人ひとりのペースを尊重し支援している。また、その日の状態によっては、食事、起床の時間をずらすなどの配慮をしている。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族よりおこづかいを預かり、本人希望時や必要時に買い物に行き、本人の好きな服や、職員と選んで購入している。また、遠方の家族からは定期的に本人にあった衣服を送っていただいております、本人も喜んで着ている。		

ハートホーム平川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は職員も同じ食事を食べるが、昼、夕食は配食を利用者と共に盛り付けなどを行っている。月1回は食事作りを実施し、体調や希望に応じて粥やパンへの変更も出来る。	昼と夕は法人からの配食で利用者と一緒に盛り付けをしている。月1回は利用者の希望献立で、準備や配膳、片付けを職員と一緒にを行い、食事を楽しむことが出来る支援をしている。時々、併設施設から手作り料理の差し入れがある。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は把握している。配食の献立は法人栄養士が作成、朝食等についての栄養バランスも栄養士のアドバイスももらっている。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた支援を行っている。義歯は毎日消毒、保管している。職員は訪問歯科医の来訪時に指導を受け、口腔ケアを支援している。		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合ったパンツやパットの検討。食後に排尿の多い方は、食後早めに誘導するなど、その人に合った排泄パターンを話し合い、誘導を行っている。	一人ひとりの排泄チェック表等で排泄パターンを把握し、パンツやパットの検討や誘導等を話し合い、自立に向けた支援を行っている。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、飲水量の把握を行い、便秘がちの人で牛乳の好きな方には牛乳を多く進め、便秘にならないよう努めている。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日午後から入浴可能(13:00~18:0)。利用者の希望を大事にし、入浴を楽しめる支援をしている。自分でシャワー浴をする人、馴染みの人と一緒に入浴する人もいる。清拭や足浴等の対応もしている。	毎日13時から18時まで入浴することができ、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、シャワー浴をする人、馴染みの人と一緒に入浴する人等入浴を楽しむことが出来る支援をしている。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合った生活を支援している。人に応じて、午後から臥床時間を設けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり手渡しで確実に服薬している。不定期であるが、薬剤師の指導を受けている。服薬の情報はファイルして共有している。必要な情報は週3回の訪問診療時にフィードバックしている。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	起床、就寝、日用品の調達など本人の希望を尊重し、家族と連携しながら支援している。地域の美容院やかかりつけの歯科の往診も可能で、本人の意向等は家族にも強力を得て、モニタリング用紙(センター方式を参考に改定)を活用している。	生け花や塗り絵、トランプ、貼り絵、将棋等の楽しみごと、花壇の水やり、洗濯物の取り入れ、洗濯物たたみ、野菜づくりなど一人ひとりの生活歴や力を活かした役割等気分転換の支援をしている。月1回の歌体操やNHKの作品展に向けて貼り絵を楽しんでいる。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に喫茶店があるので、天候の良い日は出かけてお茶をしている。美容院も近所であり、本人・家族の希望時には散歩がてら歩いて行っている。車でも、利用者の行きつけの店に付き添いで買い物に行っている。	天候の良い日は散歩や、近所の喫茶店でお茶を飲んだり、本人の希望で近所の美容院や買い物に出かけるように支援している。	
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かりにしているが、週に2回の訪問販売のパンやが来たときは、利用者で買い物に行き、小遣いで好きなものを買っていただいている。また、買い物訓練の際も、小遣いから好きな服を買ったり、お茶をしている。		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話などあった際は、本人と話ができるように支援するとともに、本人の電話の内容を聞き、家族に電話を行い本人と話ができるようにしている。手紙のやり取りは出来るようにしている。		

ハートホーム平川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ガラス張りの玄関は雨や雲の流れが見ることができ、メダカの水槽や花を沢山生けており、季節を感じる事が出来る。廊下には、その季節の花や行事で行った際の写真を飾っている。	共用空間は広く明るく、温度や湿度管理が出来ており、季節に応じた貼り絵や花が飾られている。廊下には、腰掛けが置いてあり、中庭のガーデニングが眺められ、緑に包まれた木々が美しく感じられ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	将棋が趣味の方に、窓際の席で将棋が出来るようにテーブルと将棋セットを準備し、職員と楽しんでいる。テーブル内で馴染みの関係が出来、トランプ等で自主的に遊んで楽しんでいる。		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、テーブルセット、冷蔵庫、タンス、鏡台、ベッド、テレビ、机、写真など好みの物や使い慣れた物が持ち込まれている。フローリングの個室であるが、希望に応じて畳を敷くなど、本人が落ち着いて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は広く、本人や家族と相談しながら、ソファやテーブルセット、冷蔵庫、筆筒、鏡台、ベット、テレビ、家族の写真等想いの物や使い慣れた物が持ち込まれている。希望により畳の間もあり、本人が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーなど大きく掲示し、利用者に日にちが分かるようにするとともに、毎日の体操時に日付の確認を行いうなど工夫している。また日常の動作「食事作り・整容など」利用者の高さにあっており。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 ハートホーム平川グループホーム

作成日: 平成 22年 10月 16日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	「職員を育てる取り組み」 新人職員が多く良い介護があまり出来ない。	サービスの共有し利用者様に安心した介護 が出来るようになる。	・1Wに1回は介護技術の勉強会を開き、サービスの向上を行う。	6ヶ月
2	35	「事故防止の取り組みや事故発生時の備え」 新人職員が多く事故発生時の対応が出来る職員が少なく。また事故防止に対しての知識があまり無い。	事故発生件数を減らす。	・業務改善ミーティングにて、事故防止の話し合いを作り、事故についての認識・危険性などを教育していく。 ・事例を検討し、事故発生時の対処法の教育を一ヶ月に一回は実施する。	6ヶ月
3	5	「運営推進会議を活かした取り組み」 参加される家族が少ない。	家族に話し合いの参加を求めサービスの充実化を計る。	・家族交流会夕食作りでの呼び込みを月1回は行い、その都度交流会の参加を促す。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。